悲しき玩具

石川啄木著

東雲堂發行
四十五年

悲しき玩具

——(四十三年十一月末より)——

明治四十五年六月十五日印刷
明治四十五年六月二十日發行

（定價金五十錢）

（獸集悲しき玩具）

著作權所有

著者　石川一

東京市京橋區南傳馬町三丁目十番地
發行者　西村寅次郎

東京市京橋區南紺屋町二十四番地
印刷者　岡田錬一

發行所　東京市京橋區南傳馬町三丁目　東雲堂書店
電話京橋一六三九
振替東京五六一四

東京模範印刷所印刷

詳細な弊堂出版書
目錄は往復はがきに
て御申越次第贈呈す

内容

一握の砂以後百九十四首（歌）
一利己主義者と友人との對話（感想）
歌のいろ〳〵（感想）

悲しき玩具

——一握の砂以後——

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

呼吸すれば、
胸の中にて鳴る音あり。
凩よりもさびしきその音！

*

眼閉づれど、
心にうかぶ何もなし。
さびしくも、また、眼をあけるかな。

途中にてふと氣が變り、
つとめ先を休みて、今日も、
河岸をさまよへり。

*

咽喉がかわき、
まだ起きてゐる果物屋を探しに行きぬ。
秋の夜ふけに。

遊びに出て子供かへらず、
取り出して
走らせて見る玩具の機關車。

*

本を買ひたし、本を買ひたしと、
あてつけのつもりではなけれど、
妻に言ひてみる。

旅を思ふ夫の心！
叱り、泣く、妻子の心！
朝の食卓！

*

家を出て五町ばかりは、
用のある人のごとくに
歩いてみたれど——

痛む歯をおさへつつ、
日が赤赤と、
冬の靄の中にのぼるを見たり。

*

いつまでも歩いてゐねばならぬごとき
思ひ湧き來ぬ、
深夜の町町。

なつかしき冬の朝かな。
湯をのめば、
湯氣がやはらかに、顔にかかれり。

*

何となく、
今朝は少しく、わが心明るきごとし。
手の爪を切る。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

うつとりと
本の挿絵に眺め入り、
煙草の煙吹きかけてみる。

*

途中にて乗換の電車なくなりしに、
泣かうかと思ひき。
雨も降りてゐき。

二晩おきに、
夜の一時頃に切通の坂を上りしも——
勤めなればかな。

*

しつとりと
酒のかをりにひたりたる
脳の重みを感じて歸る。

今日もまた酒のめるかな！
酒のめば
胸のむかつく癖を知りつつ。

*

何事か今我つぶやけり。
かく思ひ、
目をうちつぶり、酔ひを味ふ。

すつきりと酔ひのさめたる心地よさよ！
夜中に起きて、
墨を磨るかな。

＊

眞夜中の出窓に出でて、
欄干の霜に
手先を冷やしけるかな。

どうなりと勝手になれといふごとき
わがこのごろを
ひとり恐るる。

*

手も足もはなればなれにあるごとき
ものうき寝覚！
かなしき寝覚！

朝な朝な
撫でてかなしむ、
下にして寢た方の腿のかろきしびれを。

*

曠野ゆく汽車のごとくに、
このなやみ、
ときどき我の心を通る。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.